

小学校 社会科 部会

部会長名 香春町立香春小学校 校長 森 秀二

実践者名 香春町立香春小学校 教諭 谷口 祐有季

1 研究主題

考え合う子どもの育成
～拮抗場面を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

現在わたしたちが生きる社会は変化の激しい世の中であると言ってよい。世界の状況を見れば、今後、大きな社会構造の変化が起こると考えられる。近年顕著となっているのは、知識・情報・技術をめぐる変化の速さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会変化が予測を超えて進展するようになってきていることである。このような予測不能な社会を生きる子ども達は、その変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合っ

て関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮しながら、よりよい社会と幸福な人生の創り手となることが望まれる。

このような状況を踏まえ、中央教育審議会答申では、今後、子ども達に育成すべき資質・能力は、①生きて働く「知識・技能」、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」であるとしている。そして、学校においてこれらの資質・能力を育むためには「社会に開かれた教育課程」の理念に立脚した組織運営の改善と授業改善を図ることが重要であるとし、改善の視点として「カリキュラム・マネジメント」と「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善を提起している。

(2) 学習指導要領の趣旨から

新学習指導要領では、従来の各教科等の指導による「何を学ぶか」に加えて「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」が答申で提起された子ども達に育成すべき三本柱として、求められるようになってきた。さらに、各教科等の指導による目標や内容も再整理され「何ができるようになるか（資質・能力）」「何を学ぶか（内容）」が明確化されている。また、総則では「どのように学ぶか」について、教育課程編成・実施の在り方（カリキュラム・マネジメント）や子どもの主体的・対話的で深い学びを実現するための配慮事項が示されている。今後、各学校では新学習指導要領で示された内容をもとに教育課程の見直しや授業改善を進めていくこととなる。

3 主題の意味

(1) 「考え合う子ども」とは

社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えた事や選択・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりすることができる子どものことである。

(2) 「拮抗場面」とは

妥当な2つの考えを検討し合うことにより、よりよい考えを創り上げるための場のこと

である。

4 研究の目標

社会的事象を多角的に考え合うことのできる子どもを育成するために拮抗場面を設定した社会科学学習指導の考え方を究明する。

5 研究仮説

社会科学学習において、学習問題に対する考えを検討する交流の段階で拮抗場面を設定すれば考え合う子どもが育成できるだろう。

6 研究の計画(授業の計画)

(1) 単元名 「長州征伐と藩庁移転」

(2) 単元(題材等)の目標及び指導計画

① 児童観

子どもたちは、これまでの社会科学学習において為政者の政策と民衆の重税や身分の固定による苦悩に満ちた暮らしとの関係を追究してきた。そのため、為政者の政策の目的や理由、それによる民衆の思いに対する関心は高く、歴史的事象に対して自分なりの考えを創り、話し合うことができるようになってきた。十分ではないがお互いの考えや良さを認め学ぼうとする姿勢も育ち、仲間と共に生活を高めていこうとする態度も育ちつつある。

しかしながら、思考の手がかりを教科書や資料集、参考書等を活用し、追究する力は十分でない。そのため、こだわりはあるが、根拠が弱く事実を基にした発言が十分ではない。資料を基に多様な見方・考え方を発揮し、事象の奥深くにある背景を主体的に追究したり、学び合いによって思考を深めたりする学び方を身に付けて欲しいと願っている。

そのためにも、具体的で身近な社会的事象の追究を通して、資料等の根拠に基づいた考えを創ることができるように、考え合う子どもたちの育成を目指したい。

そのような担任の願いが強い児童にR児とI児がいる。

② 教材観

本校の敷地内に旧香春藩庁門が設置されている。体育館の裏ということもあり、子どもたちの目に触れる機会は乏しい。しかし、江戸時代の文化を学習する中で、香春町に香春思永館という藩校があり、武士の子どもたちの教育にあたっていたことを学習することによって、当時の史跡に関心を持ちはじめた。旧香春藩庁門とともに、その移設の経緯を記した看板もある。旧香春藩庁門を調べることによって、藩が小倉から香春に移された背景を追究する契機となる。

藩が小倉から香春に移された背景として第二次長州征伐(1866年)がある。江戸幕府軍15万、長州藩軍3500と言われ、数で上回っているにもかかわらず長州藩軍に負けた理由を調べさせることにより、幕府軍の装備は、旧式の火縄銃に槍、刀を持ち動きを極端に鈍くする重い甲冑を着ていたこと、それに対して、長州藩軍は、みな軽装で、手には最新式のゲーベル銃を持ち、西洋戦術で訓練された効率のよい戦闘を展開したことなどの原因を、追究させることができる。

また、長州藩との戦いに負け、小倉藩の藩士等は香春に逃げてくる。その数約一万と言

われている。香春が豊前12宿の中で主要な宿駅だったとはいえ、一万もの人々が押しかけてくれば、まちは大混乱に陥ることになる。藩士を農家に住ませ薪やわらじ等の生活必需品の調達や藩士と農民によるけんかにより死者が出るなどのトラブルが起きており、当時の香春の人々の苦労を追究させることができる。

長州征伐による小倉藩から香春藩への移転、そして豊津藩への移転（1869年）の過程で、長州藩の勝利により、260年続いた江戸幕府の権威と影響力は失われ新しい時代（明治時代）と進んで行く事になることをとらえさせることができる。

旧香春藩庁門を調べたことから生じた問いを契機に話し合い活動とともに、資料等から聞き取り調べる活動を連続発展させることにより、自分の考えの足りなさや不十分さに気づき、考え合うことの大切さを捉える子どもに育ってくれると願っている。

③ 指導観

長州征伐と藩庁移転の学習を通して、考え合う子どもを育成するために、次のような手立てを講じる。

- (1) 社会的事象を主体的に追究できる単元構成の工夫
- (2) 一人一人の考えを捉え、生かす話し合い活動の工夫

(1) 社会的事象を主体的に追究できる単元構成の工夫

旧香春藩庁門を窓口にも、藩庁移転の背景を子どもの問いを生かし追究させるようにする。

- ・ 小笠原忠真の母は松平信康の娘で徳川家康の外曾孫にあたることから、以後小倉藩主小笠原氏は西国譜代大名の筆頭として九州の玄関口を抑える、いわば「九州探題」の役割を果たし外様大名の監視にあたるなど、小倉藩は重要な位置を占めていたにもかかわらず、なぜ香春に藩を移転したのか。
- ・ 長州征伐のため15万の幕府軍が出陣したが、なぜ、僅か3500の長州藩軍に敗退したのか。
- ・ 豊前12宿の中で主要な宿駅であった香春に移転したにもかかわらず、なぜ僅か3年あまりで豊津に移転したのか。

(2) 一人一人の考えを捉え、生かす話し合い活動の工夫

学習を展開するに当たっては、学習の節々で調べたことや考えたことを書かせ、子どもたちの考えやつまずきをとらえ、子ども主体の学習づくりに生かしていくようにする。

- ・ 調べ活動の時間の確保
学びが受動的にならないように、調べ活動の時間を十分に確保し、関連的に理解できるようにする。
- ・ 考えたことを書く時間の確保
自分の考えをもたせたり、再考させたりするために考えを書く時間を確保する。
- ・ 話し合い活動の充実
拮抗場面を設定し、資料等の根拠に基づいた話し合いを行う。

④ 単元の目標

単元	長州征伐と藩庁移転	総時数	7時間	時期	9月
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ●社会的事象への関心・意欲・態度 <ul style="list-style-type: none"> ・藩庁移転から見えてくる当時の様子について進んで調べようとしている。 ●社会的な思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・香春藩庁門がどのような経緯で移転されたのかについて学習問題を考え、表現している。 ・香春の人々の生活から長州征伐と幕府の衰退を考え、適切に表現している。 ●観察・資料活用の技能 <ul style="list-style-type: none"> ・香春藩庁門移転について、門の説明書きや年表から調べ、まとめている。 ・長州征伐について、人数の差や武器の差などの資料を調べ、まとめている。 ●社会的事象についての知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・長州征伐によって藩庁が移転した理由を理解している。 ・不平等条約、生活必需品の値上がり、飢饉などにより幕府が衰退し、江戸幕府が終わったことを理解している。 				

⑤ 単元構想

< 1 >

- 1 旧香春藩庁門について書いている児童の日記を発表させる。
- 2 旧香春藩庁門を見学し、調べる。ノートにわかったこと思ったことをメモさせる。
- 3 教室にもどって、書かせる前に黒板に旧香春藩庁門についての説明を張って、分かったこと思ったことを書かせる。

< 2 >

- 1 旧香春藩庁門を見学し、わかったこと思ったことを発表する。
 - ※ 発表させながら、街道の地図を提示し、藩庁の意味（藩の役所を表す用語。語としては県の「県庁」等にあたる。）、小倉藩の重要性（小笠原忠真の母は松平信康の娘で徳川家康の外曾孫にあたることから、以後小倉小笠原氏は西国譜代大名の筆頭として九州の玄関口を抑える、いわば「九州探題」の役割を果たし外様大名の監視にあたる）を説明しながら板書をする。
 - ※ 「どうして香春は豊前12宿の中で主要な宿駅だったのか。」「どうして香春は田川の藩政の中心地だったのか。」の問いに対しては、商業都市であり人口が多かったからであることを補説する。
 - ※ 小倉は大事な場所だったのに、どうして藩庁を香春に移したのかという問いを生かすようにする。

2 藩庁を香春に移した理由を話し合う。

〈どうして藩庁を香春に移したのか〉

(自主的)

←移転→

(仕方なく)

- ・香春が発展した
- ・徳川に逆らう者がいなくなった

- ・災害が起きた
- ・敵にせめられた

3 予想をノートに書く。

< 3 >

1 藩庁を香春に移した理由を発表させ、まとめる。

※ 長州藩（山口県）との戦いに負けたから移動したことをまとめる。

2 思ったことを発表させる。

「どうして戦いになったのか。」

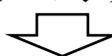
「どうして負けたのか。」

の問いをもとに、当時の様子を調べさせる。

3 教科書90ページ～93ページを調べさせる。

< 4 >本時

1 長州藩（山口県）と戦をした当時の様子を調べさせる。

1853年	ペリー来航・・・開国を要求
1854年	開国・・・日米和親条約（下田・函館）
1858年	日米修好通商条約（横浜・長崎）・・・鎖国終了 ・外国人を日本の法律で裁けない ・外国の安い製品を制限できない （オランダ・ロシア・イギリス・フランスとも結ぶ）  国内の品物が不足 米などの生活必需品が値上がり
	ききん
	新しい政治のしくみをつくらうとする動き（天皇中心とした政府） 薩摩藩（鹿児島県）・長州藩（山口県）・・・薩長同盟  土佐藩（高知県）の坂本龍馬がはたらきかける

※ 幕府（15万人）が長州藩を倒すために出兵したことをおさえ、兵員数の表と戦った場所を提示する。

※ 数で上回っているにもかかわらず、長州藩に負けたことに対する問いを生かす。

2 長州藩に負けた理由を話し合う。

〈どうして幕府側は負けたのか〉

(やる気がない)

←敗因→

(武器の差)

・人数が多いから人任せ
・ずっと戦をしてなかった

・戦の準備をしていた

3 予想をノートに書く。

< 5 >

1 長州藩に負けた理由を発表させ、まとめる。

- 薩長同盟・・・外国の力を借りるべきで一致
- 最新鋭の武器・・・イギリスから購入 (ミニエー銃、スペンサー銃、アームストロング砲)
- 徳川家茂が病死により、総大将の小笠原長行が敵前逃亡・熊本藩の撤退攻め込まれる前に小倉城を自焼させ、香春に移ったことをまとめる。

2 香春の様子を調べる。

※ 各地域の農民の家に武士が同居した人数の資料を提示

※ 武士と同居することによるメリットやデメリットに対する問いを生かす。

3 小倉の人々がきたことをどう思ったのか話し合う。

〈小倉の人々が香春にきたことをどう思ったのか〉

(いや)

←香春の人々→

(いい)

・家がせまい
・出費がかさむ

・守ってくれる

4 予想をノートに書かせる。

< 6 >

1 小倉の人々が香春にきたことをどう思ったのか発表させ、まとめる。

※ G Tに当時の様子とそのときの気持ちを話してもらおう。

- 食料・薪の供給に大変苦労した。
- 種々の問題が起こる (争い、けが人が出て一人死亡)

2 年表と地図 (資料5) で豊津に移転したことをたしかめる。

3 豊津を選んだわけを話し合う。

〈どうして豊津を選んだのか〉

(場所がなかった) ←豊津→ (適した場所だった)

4 予想をノートに書かせる。

< 7 >

1 豊津を選んだわけをまとめる。

- 広い原っぱ
- 海に近い・・・大阪、江戸に行きやすい

2 幕末についてまとめる。

※ 長州藩の勝利により、260年続いた江戸幕府の権威と影響力は失われ、新しい時代（明治時代）と進んで行く事になる。

7 指導の実際

< 1 > 旧香春藩庁門を見学し、調べる。

前单元「新しい文化と学問」の学習で、香春小学校区に「香春思永館」という藩校があり、武士の子どもたちの教育をしていたことを調べた。

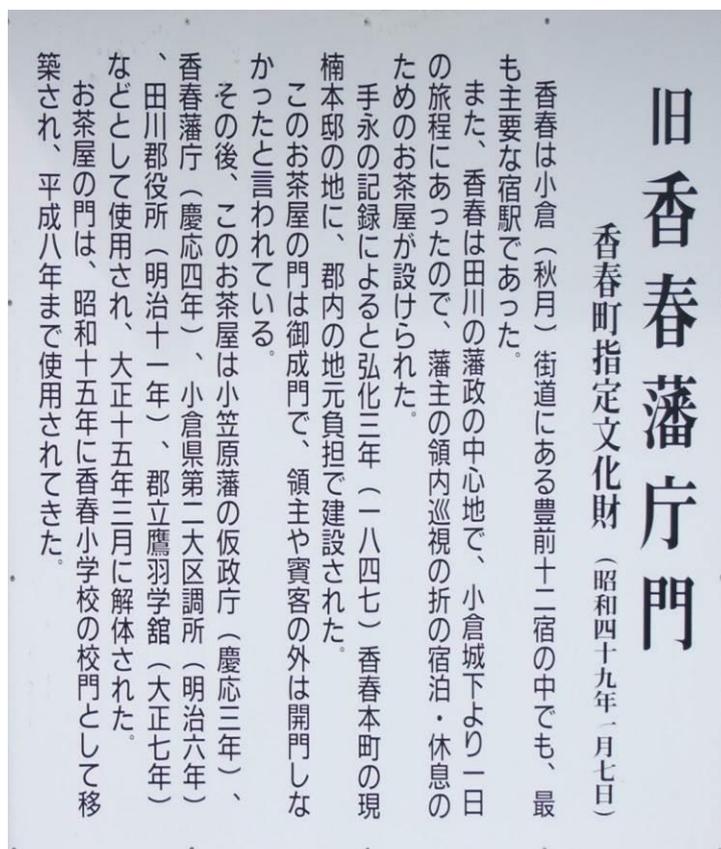
そのような中で、体育館の裏にある香春藩庁門に関心を示した子どもがでてきたが、子どもたちの多くは、古い門みたいな物があることには気付いているが、関心は示していない。

そこで、次の子どもの作文を紹介し、旧香春藩庁門について調べることにした。

9月6日（木）Y児

体育館のうらに大きな古い門みたいな物があるけどなんに使われているのかなと思いました。香春はんのはん校と関係があるのかな、こんど調べてみたいです。

香春藩庁門の横に設置されている解説をもとに調べた。



9月10日（月） 香春はん庁門を調べて I 児

香春は十二宿の中でも、最も主要な宿駅です。藩主のためにお茶屋がつけられました。どうしてこんないかなのに、最も主要であったのかと思いました。藩主がそこを帰る時に、とてもしあわせといったことを、町人が聞いて評判になったからだと思います。

< 2 > 藩庁を小倉から香春に移した理由を話し合う。

香春が十二宿の中でも、最も主要な宿駅であった理由を確かめるとともに、小倉においていた藩を香春に移転させたことを捉えた。



さらに、小倉藩の重要性（小笠原忠真の母は松平信康の娘で徳川家康の外曾孫にあたることから、以後小倉小笠原氏は西国譜代大名の筆頭として九州の玄関口を抑える、いわば「九州探題」の役割を果たし外様大名の監視にあたる）を説明した。

子どもたちはいくら香春が最も主要な宿駅であったとしても、小倉から香春に藩庁を移すことに間い持った。そこで、どうして藩庁を香春に移したのかを話し合うことにした。

子どもたちの考えを、自主的に移したのか仕方なく移したのかで拮抗させたが、仕方なく移したにかたよった。しかし、質問したりつなげたりして考える姿が見られた。仕方なくの意見の理由も様々な角度から考えることができた。

9月12日（火） 藩庁を香春に移したわけ R 児

しかたなくおいたと思いました。なにかしらの自然災害がおきて、土地がなくなったから香春にうつした。

9月12日（火） はん庁を香春にうつしたわけ I 児

ぼくは、しかたなかったと思います。小倉にずっとおいてたら、けいかいされてさくせんをたてられてふりになるから香春においておとりにした。

< 3 > 藩庁を香春に移した理由を発表させ、まとめる。

藩庁を香春に移した理由を発表させたが、調べてきた子どもがいなかったもので、長州藩（山口県）との戦いに負け、小倉城を焼き、香春に逃げたからと説明した。その後、「どうして戦いになったのか。」「どうして負けたのか。」といった問いをもとに、当時の様子を調べる予定にしていたが、「なぜ、戦いになったのか。」と発問し、その理由を調べることにした。

9月14日（金）	なぜ、戦いになったのか	R児
日米和親条約は、日本人にとってわるいことが多いので、長州藩は、それに反対して力が弱まっている今をねらって戦った。		

9月14日（金）	なぜ戦いになったのか	I児
米などの生活必需品が値上がりしたりして人々の生活を苦しめました。ただでさえ刀狩令などあるのに、山口からせめられて、そして外国の条約など、値上がりをしたらひとたまりもない。		

< 4 > 長州藩の方が人数が少ないのに勝った理由を話し合う

なぜ、戦いになったのか調べたことを発表し、次の内容についてまとめた。

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ペリー来航・・・開国を要求 ○開国・・・日米和親条約（下田・函館） ○日米修好通商条約（横浜・長崎）・・・鎖国終了 ○国内の品物が不足・・・米などの生活必需品が値上がり ○新しい政治のしくみをつくろうとする動き（天皇中心とした政府） ○薩摩藩（鹿児島県）・長州藩（山口県）・・・薩長同盟 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

さらに、兵員数について関心を持たせ、次の資料を提示した。

	幕府軍の兵員数	長州藩の兵員数
大島口	2,000人	500人
芸州口	50,000人	1,000人
小倉口	20,000人	1,000人
石州口	30,000人	1,000人



子どもたちは、兵員数の差に驚き、どうして兵員数が少ない長州藩が勝つことができたのか関心を示した。

そこで、どうして人数が少ないのに、幕府軍に勝てたのか話し合った。

子どもたちの考えを、長州藩が優れていたからなのか、幕府側にやる気がなかったのかで拮抗させた。長州側の技術や戦略が優れていたという考えと、幕府側が勝ると油断していたという考えで話しが進んだ。戦略や武器について質問する子もあり、考え合う姿が見られた。

9月20日（木）	どうして人数が少ないのに勝てたのか	R児
私は、幕府がすいたいしたからだと思います。幕府は人数が多いけど、長州は少ないから幕府側に心のゆるみが出てきてしまったから、幕府がまけてしまった。		

9月20日(木) どうして人数が少ないのに勝てたのだろうか I児
ぼくは幕府がすいたいたからと思います。人数が多いだけで、ほとんどは、農民とか、百しようにした。農民に使わせる武器がない。

<5> 小倉の人々が香春にきたことをどう思ったのか話し合う授業

9月20日(木) どうして人数が少ないのに勝てたのか I児
幕府軍よりはやくミニエ銃など、あたらしい武きを導入したから。ミニエ銃のとくちょうをいかして勝った。ミニエ銃とは、銃身の内部にらせん状の溝を刻んだライフル銃で、ドングリ型の弾丸が回転しながら飛ぶため、命中精度が高いのがとくちょう。

I児がネットで調べてきたので、発表させた。

9月20日(木) どうして人数が少ないのに勝てたのか K児
ちょうしゅうはんとぼくふがたたかっているとき、徳川家しげが急死して、ぼくふ軍は引いて負けとなった。そして、ちょうしゅうはんはアームスロー砲を使い勝った。

K児が本で調べてきたので、発表させた。

2人が調べてきたことをもとに、幕府軍が負けた理由をまとめ、小倉の人々が香春に逃げてきて、農民の家に一緒に暮らすことになったことを説明した。そして、香春の人々は小倉の人が来たことをどう思ったのか話し合った。

子どもたちの考えを、いやだったのかよかったのかで拮抗させた。メリット、デメリットに視点が向き、メリットとしては、戦いや学問を教えてもらえるし、攻め込まれたら助けてもらえるというものがあがった。デメリットとしては、食糧が減ることや狭くなること、けんかになることがあげられた。また、身分制度の時代と関連づけて、「勝手すぎる」という考えもあった。自分達の住んでいる場所ということもあり、真剣に考える姿が見られた。

9月21日(金) 香春の人々は、小倉の人が来たことをどう思ったのか R児
私は、いやだと思います。武士たちが百姓とかの身分をきめたのに、めしをわけたり、とまらせたりとかはしたくないです。

9月21日(金) 香春の人々は、小倉の人が来たことをどう思ったのか I児
ぼくはいやです。家のかじができなさそう。おしえたとしてもめんどくさくなってあとからはんこうをしてくるかもしれないし、年ぐをおさめろとかいいそうだから、いやです。ほかにもおれは、えらいんだぞとって、自分かってなこうどうをしたり、ぎゃくたいなどをするから。

<6> 豊津を選んだ理由を話し合う

小倉の人々が香春にきたことをどう思ったのかを発表させ、香春町教育委員会 社会教育係係長に当時の様子を話していただいた。さらに、藩庁が香春から豊津に移転した資料を提示し、思った事を発表させた。



子どもたちはどうして移転したのかに関心を示した。そこで、どうして豊津を選んだのか話し合うことにした。

子どもたちの考えを、場所がなかったからなのか適した場所だったからなのかで拮抗させた。攻め込まれて逃げるしかなかったという考えと、地理的有利だからという考えで話しが進んだ。「もし豊津に攻め込まれたら」と想定して逃げ道を考え合う姿が見られた。

9月25日(火) どうして豊津を選んだのか R児
私は豊津がいいからだと思います。小倉より香春の方が内陸だから、にげ道があるので、長州にばれる前にちょっと近い豊津ににげたと思います。

9月25日(火) どうして豊津を選んだのか I児
ぼくは、豊津がいいからだと思います。てきにとってせめにくいからです。わけは、海が近いからてきがきたらふねで、にげられるからです。

<7> 江戸幕府はなぜ終わったのかをまとめる。

豊津に移転した理由を次のようにまとめた。

- 広い原っぱがあるため、一万人以上の小倉の人々が定住できる土地がある。
- 海に近いため大阪、江戸に行きやすい

さらに、ペリー来航から長州藩の勝利により、260年続いた江戸幕府の権威と影響力は失われ、明治維新へと進んで行く一連の流れを確認し、江戸幕府はなぜ終わったのかをまとめさせた。

9月27日(木) 江戸幕府がなぜ終わったのか R児
ペリー開国で不平等な条約をしてしまい、さこくが終了しました。また、ききんがつづき、百姓がいききをしたため武士の力がなくなった。そのため徳川が政権を天皇にかえて江戸幕府がおわり、新しい時代になった。
思ったことは、天皇に政権をかえて、昔みたいな差別がなくなるかもしれないので、いいことだと思いました。
もうすこし、しりたいことは、幕末にかつやくした人を、もっとくわしくしりたいと思いました。前よりも自分から手を上げて発表できました。理由は、勇気を出したので、ほかにもいろいろなことを知りたいと思ってきました。

9月27日(木)

江戸幕府がなぜ終わったのか

I児

不平等な条約のせいできんにくるしむ人が多くなり、武士の力がつよまったがそれを天皇のほうがいいという声が多く、あつりよくがかり、はじめて武士の力がよわまり、天皇に政権を返したと思う。ぼくは、天皇に政権をやったのをいいと思います。理由は、もし天皇中心でなく武士中心のままだと、いまでも戦いがおこってるかもしれないし、天皇中心にしたことで百姓の身分がすこしは、よくなったかもしれないから。

がんばったことは、自分やみんなで色々調べたり、色々な意見などを発表したことです。理由は、1人で考えていたら1つの考えしか生まれないけど、みんながいると1つじゃなくいっぱいできるから。

8 成果と今後の課題

- 拮抗場面を取り入れながら話し合うことで、多様な考えを出し合ったり資料を基に予想したりすることができ、考え合うために有効であった。
- 地域教材を扱うことで興味関心を持続させることや、自分達の生活から考えをつくることはできるが、考えの根拠が十分でなかった。当時の様子をとらえやすい、より具体的な資料を調べさせる必要があった。

◎ 参考文献

- 上田 薫「ずれによる想像」
- 田代 裕一「教育実践の課題と可能性」
- 長岡文雄「授業をみがく」
- 学習指導要領解説社会科編